

高校と大学の学校数と生徒数

高校生の置かれている現状

市立札幌旭丘高等学校 グループ名:黒猫 メンバー:井鳥レイチエル 藤村結愛

アブストラクト(研究の概要) 北海道の生徒数や高校、大学の設置数を全国と比較した

テーマ設定の理由、背景、目的等 日本中で少子高齢化、過疎化が深刻なので実態や原因を探ろうと考えた
北海道と都府県で、大学と高校の設置数や生徒数にどのような違いがあるのかについて興味があった

仮説

- ・高校・大学の分布が札幌圏外では満遍なく広がっている
- ・北海道の学生数、学校数は過疎化で減少が速い
- ・高校生の大学等への進学率は上がり続けている

研究方法、手順等

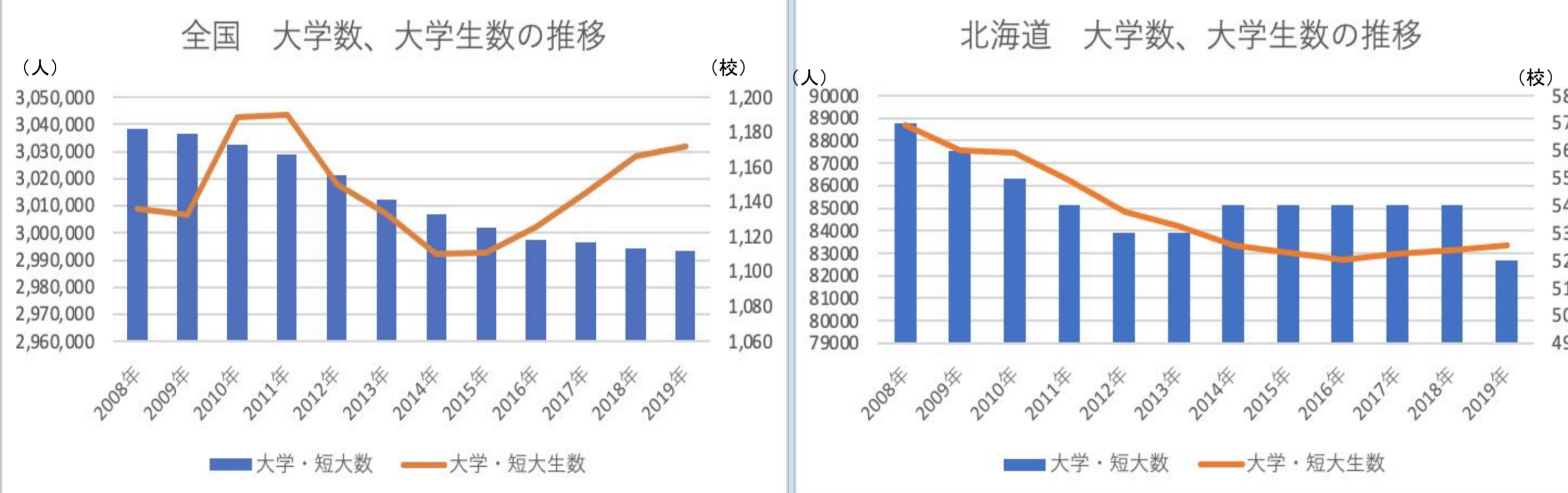
- ・高校・大学の生徒数、大学の分布をナレッジステーションというサイトで住所を調べ、それぞれプロットし、調査・インターネットから、文部科学省、厚生労働省の統計データを利用しグラフを作成

研究内容、結果



〈高校について〉

- ・学生数、学校数の両方とも、全国単位で減少していることが確認される。
- ・学生数は、北海道の方が全国よりも減少が緩やかなことがわかる。



〈大学について〉

- 全国: 生徒数は2010、2011年のあたりで最も多くなり、その後減少し、2015年のあたりから回復している。学校数は減少し続けている。
- 北海道: 生徒数は減少してきたが、2016年から少しずつ増えている。学校数は2012年まで減少し、その後増えたが2019年にまた大きく減少した。



〈高校と大学の分布について〉

高校・大学の両方とも、札幌近郊に集中している。また、地方の比較的有名な都市に集まっている傾向も見られる。

大学の方が札幌近郊に集中している顕著な現象が見られるが、高校は様々な市町村に分散している。



〈北海道の高校生の進学率〉

2012年までは低下していたが、その後上昇し続け、現在では半数近くの高校生が大学などに進学していることがわかる。

〈考察〉

- ・高校生の数の減少が北海道の方が緩やかなことに関しては、札幌の人口が減少傾向にないということが関係しているのではないかと考えた。
- ・北海道の進学率が2012年に上昇し始めた理由は、道経済がプラス成長に変わったこと、北海道のインバウンド景気が2010年から上がっていたため東日本大震災の影響を受けた後すぐに回復、増加し続けたことが関係していると思われる。